

## 第 6 回 横浜市立市民病院市民委員会議事録

開催日時	平成 20 年 10 月 9 日（木） 午後 6 時～8 時 30 分
開催場所	横浜市立市民病院 西棟地下 2 階大会議室
出席者	長谷川敏彦委員長、田口芳雄委員、浅野高嶺委員、芦立正子委員、小桧山美子委員、塩田清委員、椎野恵子委員、霍見康子委員
欠席者	大崎逸朗委員、小野容明委員
傍聴者	なし
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民病院概要について</li> <li>2 患者満足度調査結果について</li> <li>3 19 年度決算状況及び横浜市立病院経営改革計画について</li> <li>4 その他</li> </ol>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立市民病院市民委員会委員名簿・席次表</li> <li>・横浜市立市民病院市民委員会要綱</li> <li>・議事関連資料一式（資料 1～3）</li> </ul>
議事内容 (主な発言 ・質疑等)	<p>(今回、市民委員会要綱の規程に従い、全委員の改選があった。)</p> <p>議事に入る前に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院長あいさつ</li> <li>・市民委員会委員紹介</li> <li>・市民病院幹部職員紹介</li> <li>・市民委員会の趣旨説明</li> <li>・委員長及び職務代理者の選任（委員長：長谷川委員、職務代理者：田口委員）</li> <li>・委員長あいさつ があった。</li> </ul> <p><b>【議事 1】 市民病院概要について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列で紹介患者はどうか。また、新患外来の患者数の推移はどうか。 →紹介率は、17 年度 61.2%、18 年度 63.7% (2.5 ポイント増)、19 年度 68.5% (4.8 ポイント増)、20 年度は、8 月末現在で 70.1% (1.6 ポイント増) となっています。このうち初診患者数は、17 年度が 3 万 3,100 人、18 年度は 3 万 3,900 人、19 年度は 2 万 9,000 人となっています。</li> </ul> <p><b>【議事 2】 患者満足度調査結果について</b> (プライバシーについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果の中で（指摘のあったプライバシー保護について）例えば中待合室は直せるのか。 →ハード的には難しい面もありますので、声のトーンを落とす配慮や、フルネームでの呼び出しに関しても今後検討していこうという話が出ています。プライバシーの問題と安全性の問題の兼ね合わせが課題だと思っています。</li> </ul>

(施設・設備について)

- ・入院・外来ともに、「設備・アメニティー」がやはり少し点数が低い。この病院自体は何年ぐらいの建物か。  
→古い建物で約30年、新しいものでも約20年になります。段階的に増床しているため、非常に古い病棟と比較的新しい病棟が混在しています。

(電子カルテについて)

- ・電子カルテの導入後、診察等について苦情はないか。患者さんの声として、医師からの説明のときに画面を見て話をしていたということは何度か聞いている。  
→院内投書の中に、画面ばかりに向かっていて余り見ない、という指摘をいくつか受けています。また、患者さんからの指摘はありませんが、病棟で看護師が電子カルテ端末を使用する際のプライバシー保護に努めています。

(病院選択理由について)

- ・患者さんの病院選択理由に「市立病院だから」ということが、一定の割合あり、知人にも公立病院だから安心（料金のことも含めて）ということで選んだ人がいる。市民にとって愛されている病院だと感じる。

(病院機能について)

- ・急性期病院で、緩和ケアまでやるかどうかというのは大きな課題だと思う。
- ・平均在院日数が短くなり負担がかかると、医師も今までどおりに続けられるかどうかというのが今後の病院の課題になると思う。
- ・高い紹介率だが、飛び込み来院の方の受け皿の工夫などはやっているのか。  
→混む診療科は大体決まっています。地域の先生にお願いして減らしてきましたが、なかなか時間どおりにはいっていません。
- ・外来患者数について新患が増えて全体では減る方がよいが、繰返し来られるような患者さんはなるべく地域の診療所に逆紹介するという事になっているのか。  
→まだ十分にはなっていないと思います。
- ・医療連携室等の機能は強化しているのか。  
→10名前後のスタッフからなる「患者総合相談室」を設置しています。  
地域連携のことだけでなく、患者さんが困られたら、そこで職員が案内できるような形にしています。  
地域連携については、いろいろな活動をしており、その一つに「登録医制度」を取り入れ、250人弱の登録医に、活動の状況、外来の担当医表などを定期的を送り、連携を活発にしようと考えています。

(満足度調査について)

- ・職員や連携先の満足度の調査は実施しているのか。  
→職員に関しては、必ずしも満足度が高くないため、係長を中心に研修を始めています。また、紹介元の先生については9割が満足と回答をいただいています。

- ・時系列的に、職員満足度の推移は分かっているのか。  
→職員に関しては、まだきちんと見られていない状況です。

### 【議事3】19年度決算状況及び横浜市立病院経営改革計画について

(感染症について)

- ・新型インフルエンザが発生した場合、市民病院で対応するのか。  
→市民病院だけの対応は難しいですが、初期の段階では先陣を切ります。

(地域等との連携について)

- ・市民病院で亡くなる方はどのくらいか。また、それは減少の傾向か。  
→手元にデータがありませんが、18年度で500人ぐらいが死亡退院と思われ  
ます。また、地域がん診療連携拠点病院として、がんの外来化学療法などにも取り組  
んでいますので、どちらかという増加傾向にあるのではないかと考えます。
- ・「最期は自宅で」という意識がだんだん出てきている気がするが、看取った経験が  
ないということがネックとなっている感じもある。
- ・今、急性期病院にとって一番大変なのは退院で、昔は「診断からセルフケアがで  
きるまで」ということを全部の病院に期待されていたのが、「診断は外来で、治療  
を行い、回復期は別の施設で」という動きとなっているが、場所がない。
- ・(自分の病院では)回復期リハビリ病棟と療養病棟を2つ持ち合わせているが、回  
復期について、顔の見える連携がとれており、職員はとても安心している。
- ・がんの在院日数がどんどん少なくなっており、転院などをする場合に、患者さん  
側にとってあきらめの気持ちというのはかなり大きいのではないかと思う。決し  
てそうではないという説明の仕方に、重要なポイントがある。

(課題・今後について)

- ・日本では、まだ医療がどうあるのかというのが社会全般に受け入れられてないよ  
うな気がし、これが一番大きな問題だと思う。
- ・市民病院は地域のいろいろな受け皿やネットワークについて、いろいろな努力を  
しているので、もっと踏み込んで、横浜の地で市民病院を中心に、20年後、30年  
後のあるべき医療の姿みたいなものを、モデルとして示すと良いのではないか。

(感想・意見)

- ・市民病院がほかの病院と同じように、自立のため切り詰め切り詰めの立場に置か  
れているというのを初めて知った。
- ・医療はみんなのもので、みんなが協力してくれないとうまくいかないというのを、  
もっと行政で言ってもらわなければならないと思う。

(今後の委員会の進め方について)

- ・この委員会の目的がざっくりしており、いつまでに何をどのように病院長に答申  
すればいいのかということをお願いしたい。収支の部分と医療の機能の部分

は不可分であるとは言いながらも、どの部分を担うのか。

→市立病院としてはこうあるべきであるというような意見を言っていただいても結構ですし、「こうしたことも幅広く議論したい」ということがあれば、当然、我々としては歓迎で、いろいろなご意見を幅広くいただきたいと思っております。

(その他感想)

- ・地域において市民病院の存在というのは安心のよりどころと感じているが、経営内容や今後の指針などの話を聞いて、病院の置かれているものが地域の側から見ているのと大分違うなという印象。
- ・地域では、この病院は災害のときにもいつでもかかれるのか、とかというような話が多く、まだまだ大事な病院だということは、認識していると思う。

#### 【議事4】その他

- ・事務局にて各委員から意見の集約をしてから次回の委員会に臨むようにしてほしい。
- ・今までベールの中にあったことが目の前に出てきて、住民としてやはり考えなければいけないと思った。大きな宿題が出たような気がする。

#### ★次回委員会に向けた資料要求等

- ・今後の委員会の進め方に関するアンケート

次回開催

平成 21 年 2 月または 3 月 (予定)